

株式会社テクノマセマティカル

平成24年3月期＜第12期＞ 第2四半期決算説明会 資 料

■ Algorithm Specialist

TMC

平成23年11月24日

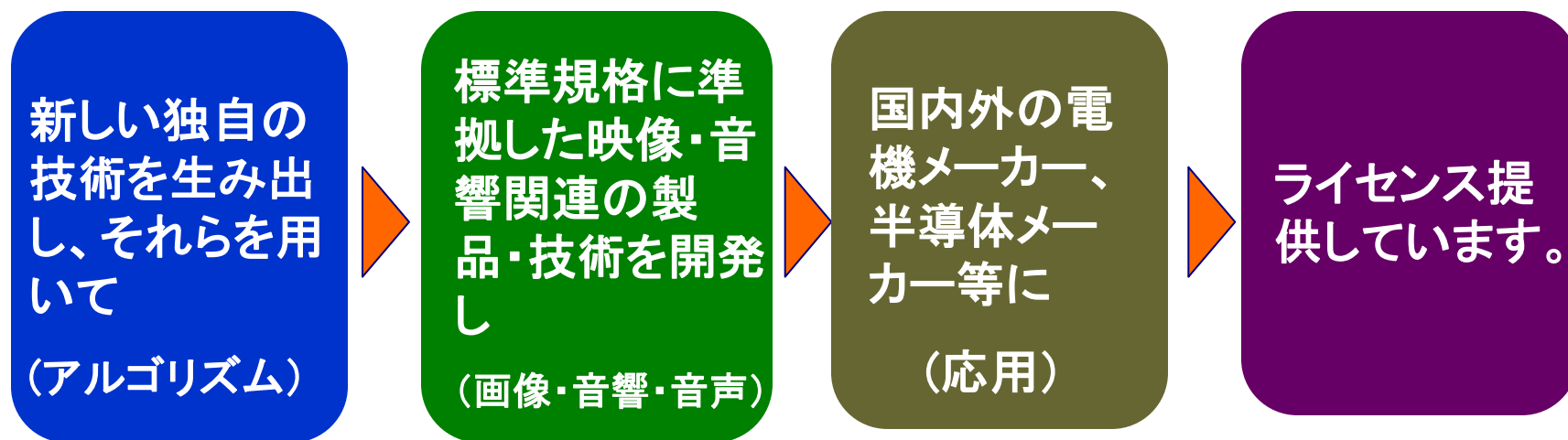
Agenda

1. 事業概要
2. 第2四半期決算の概要
3. 主要な売上指標の推移
4. 通期業績見通し
5. 平成24年3月期の課題と進捗
6. これからの事業展開について

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

1-1 当社の基幹業務について

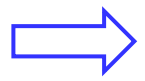
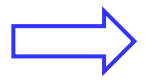


①高圧縮率、②高画質、③低消費電力量、④低遅延
を実現するデータ圧縮・伸張技術を開発、提供し続けます。

1-2 DMNAとは

<数学> 処理量削減

$$\left. \begin{array}{l} \text{Log } (f(x) + g(x)) \\ \sin f(x) \quad \frac{d}{dx} g(x) \\ \cos g(x) \\ \tan h(x) \\ z^{-1} \\ \int_a^b f(x) dx \\ \Sigma f(x) + g(x) \end{array} \right\}$$

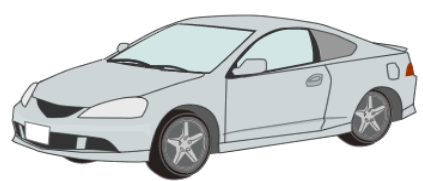


+、-

<信号処理>

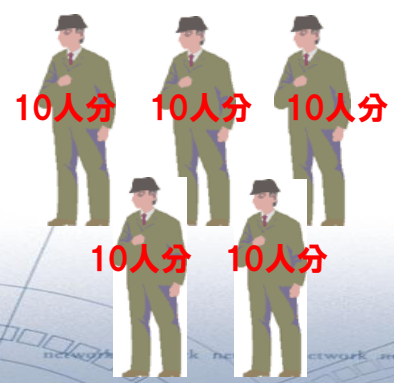
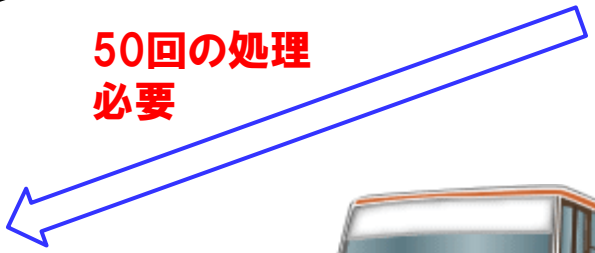
高速処理

消費エネルギー削減



1人分

50回の処理
必要

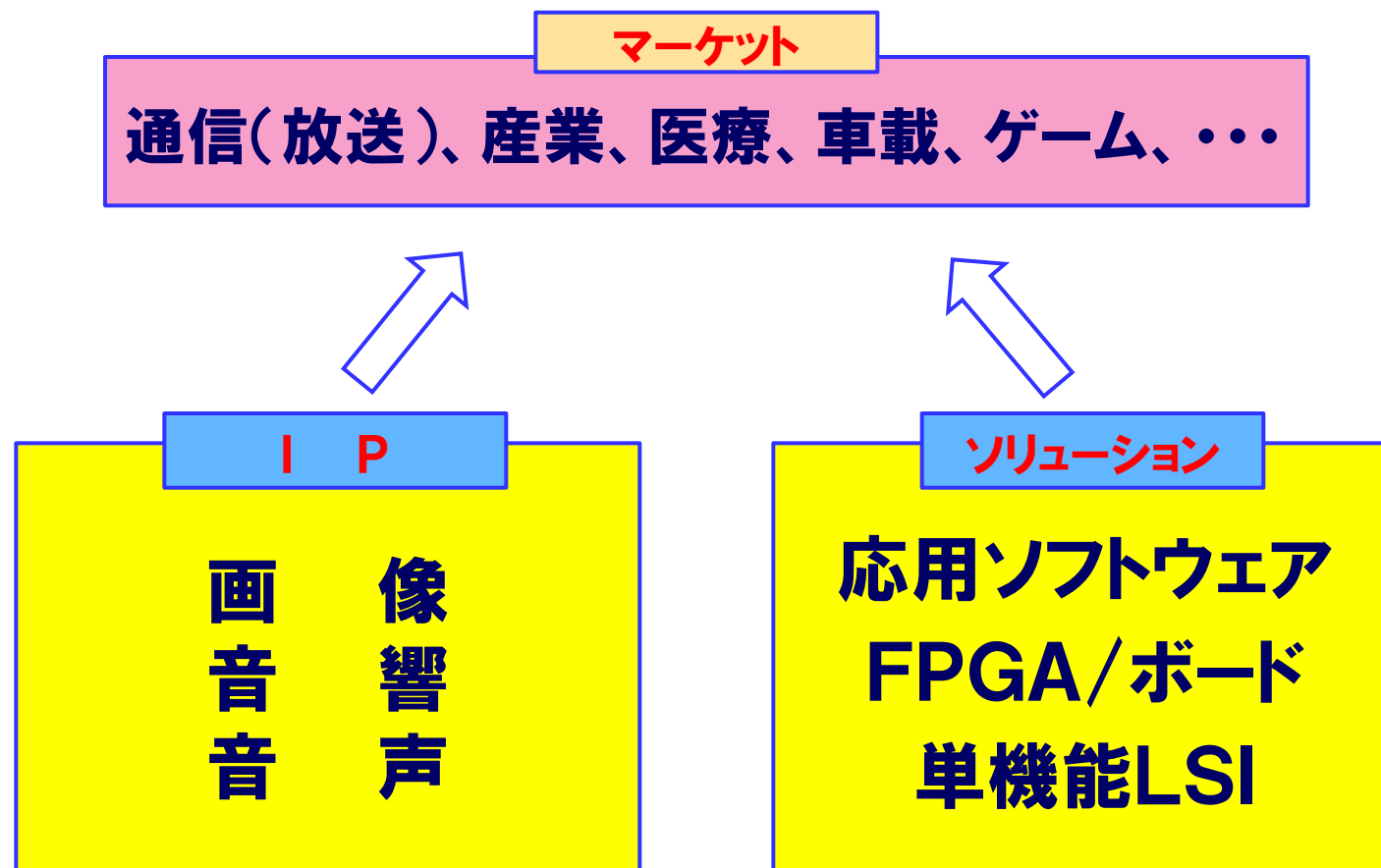


10人分 10人分 10人分
10人分 10人分

1回で処理

50人
輸送

1-3 ビジネスイメージ



1-4 当社事業の特徴

1. 独自技術により差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス/ロイヤルティ・モデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像/音響製品

4. 事業領域拡大による収益力の向上

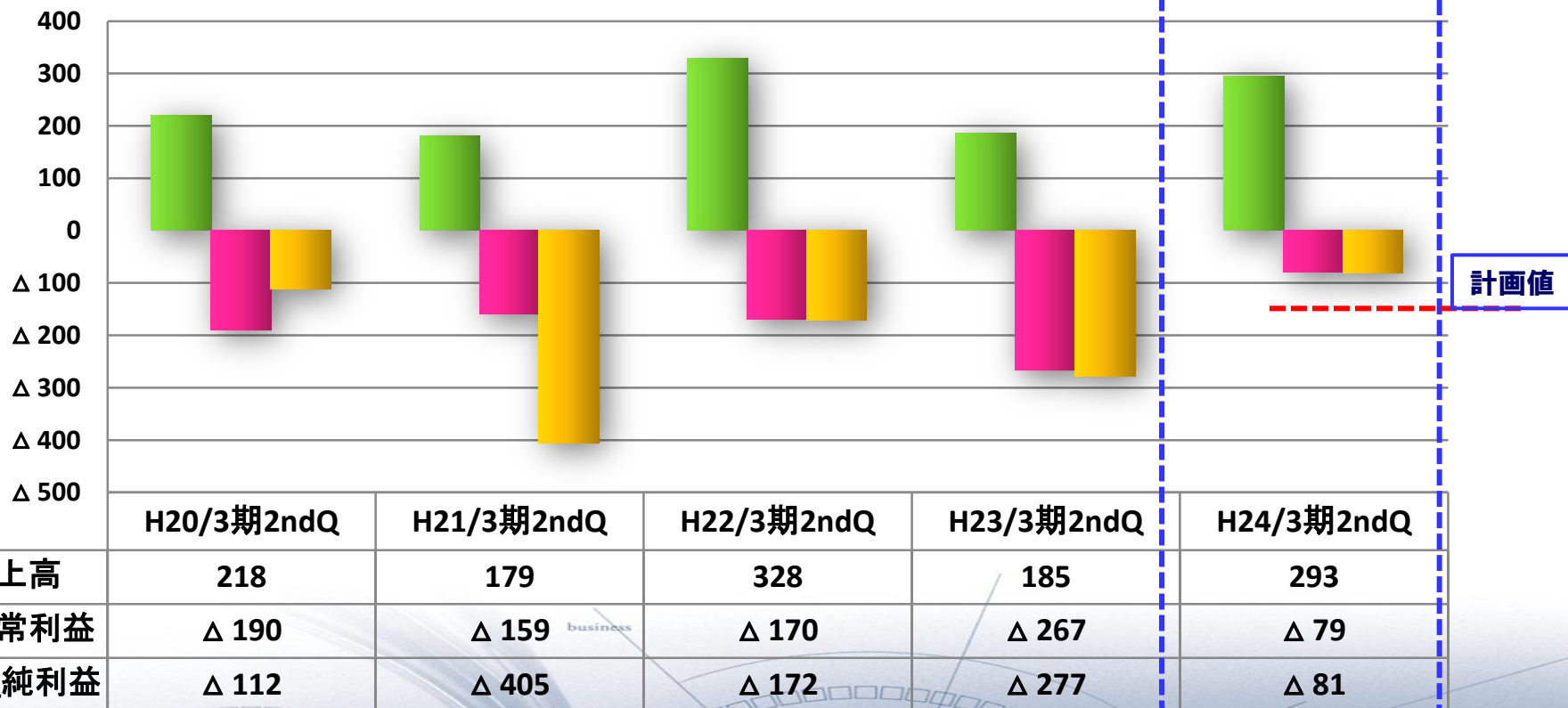
既存/新規の技術を応用したソリューション分野への展開

2-1 業績の推移

- ◆ 売上高 ほぼ計画どおり
- ◆ 損益面 計画値より大幅改善

大型案件の2Q末計上による開発費の期ずれ(下期に計上)と
自主開発案件見直し等の経費圧縮などが主な要因

(百万円)



計画値

2-2 損益計算書 (平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(単位：百万円)	当第2四半期（累計） (H24/3期2ndQ)	構成比	対前年同期間 増減比	前年同期間 (H23/3期2ndQ)
売上高	293	100.0%	58.3%	185
売上総利益	255	86.9%	85.6%	137
販売管理費	335	114.4%	△ 17.8%	408
営業利益	△80	△27.5%	—	△271
経常利益	△79	△27.2%	—	△267
四半期純利益	△81	△27.9%	—	△277

2-3 貸借対照表 (平成23年9月30日)

(単位:百万円)	H23/9末	構成比	対前期末比 増減	H23/3末
流動資産	2,999	96.3%	▲120	3,119
固定資産	115	3.7%	▲16	132
資産合計	3,114	100.0%	▲137	3,252
流動負債	78	2.5%	▲55	134
固定負債	7	0.2%	0	7
純資産	3,028	97.2%	▲81	3,110

2-4 当初業績予想との差異について

(単位:百万円)	期初予想	実績	差異額	達成率
売上高	290	293	3	101.2%
経常利益	△160	△79	80	—
四半期純利益	△163	△81	81	—

プラス面

- ◆アミューズメント向けに独自規格コーデックDMNA-Vの採用が決定。
- ◆画像エンジンチップ関連で受託開発を獲得。
- ◆上記はいずれも量産までに時間がかかると思われるが、量産後のロイヤルティ収入にも期待。

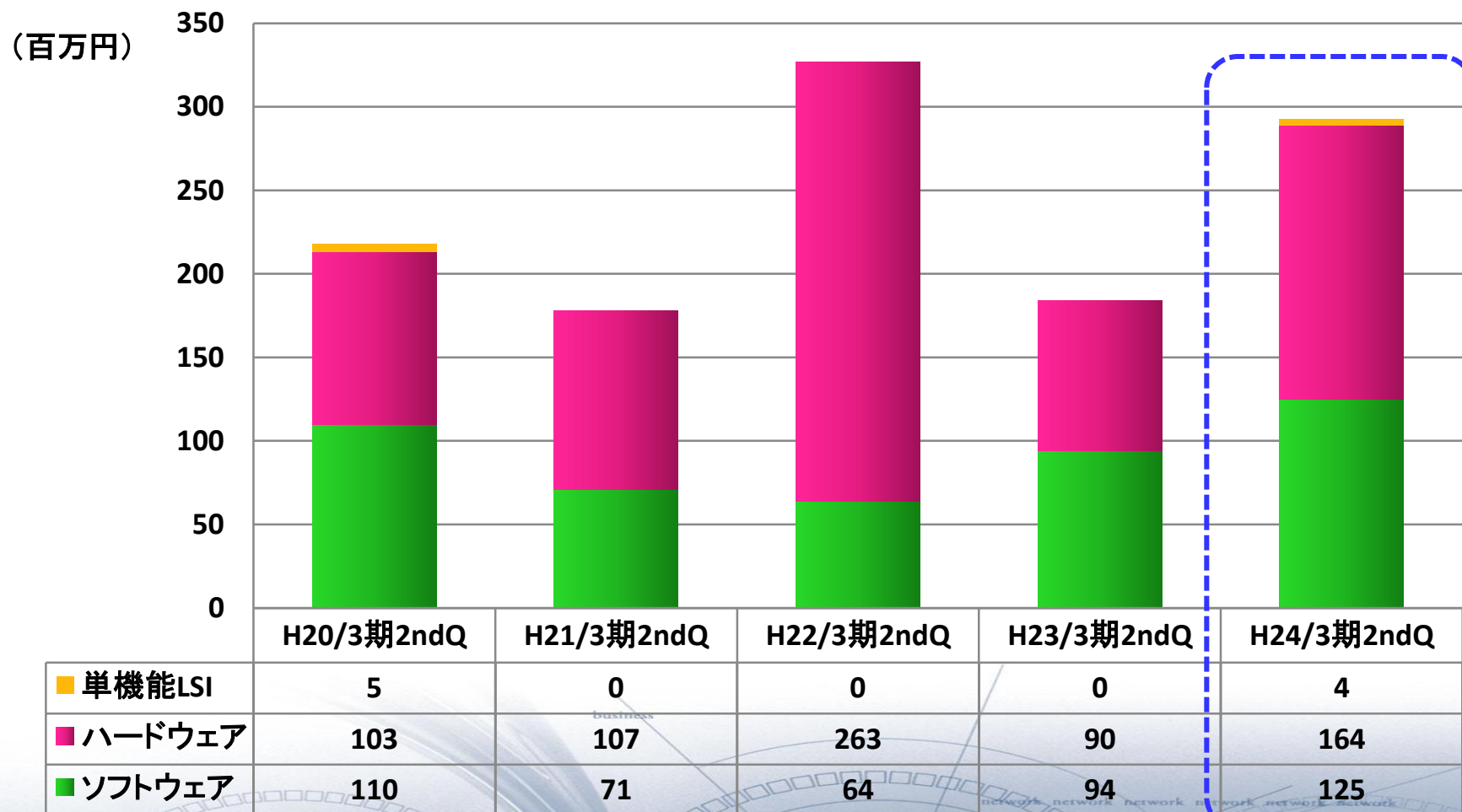
マイナス面

- ◆損益状況の改善はコスト圧縮効果によるところが大きい。売上の拡大による利益の確保を追求していく。
- ◆単機能LSI (H.264LSI) 関連や既存IPのFPGA化ビジネスの進展が計画よりも遅い。

3-1 売上の内訳(事業区分別)

◆ソフトウェアは前年同期間比3割強増・・・エリアワンセグ向けミドルウェア、DMNA-Vなど

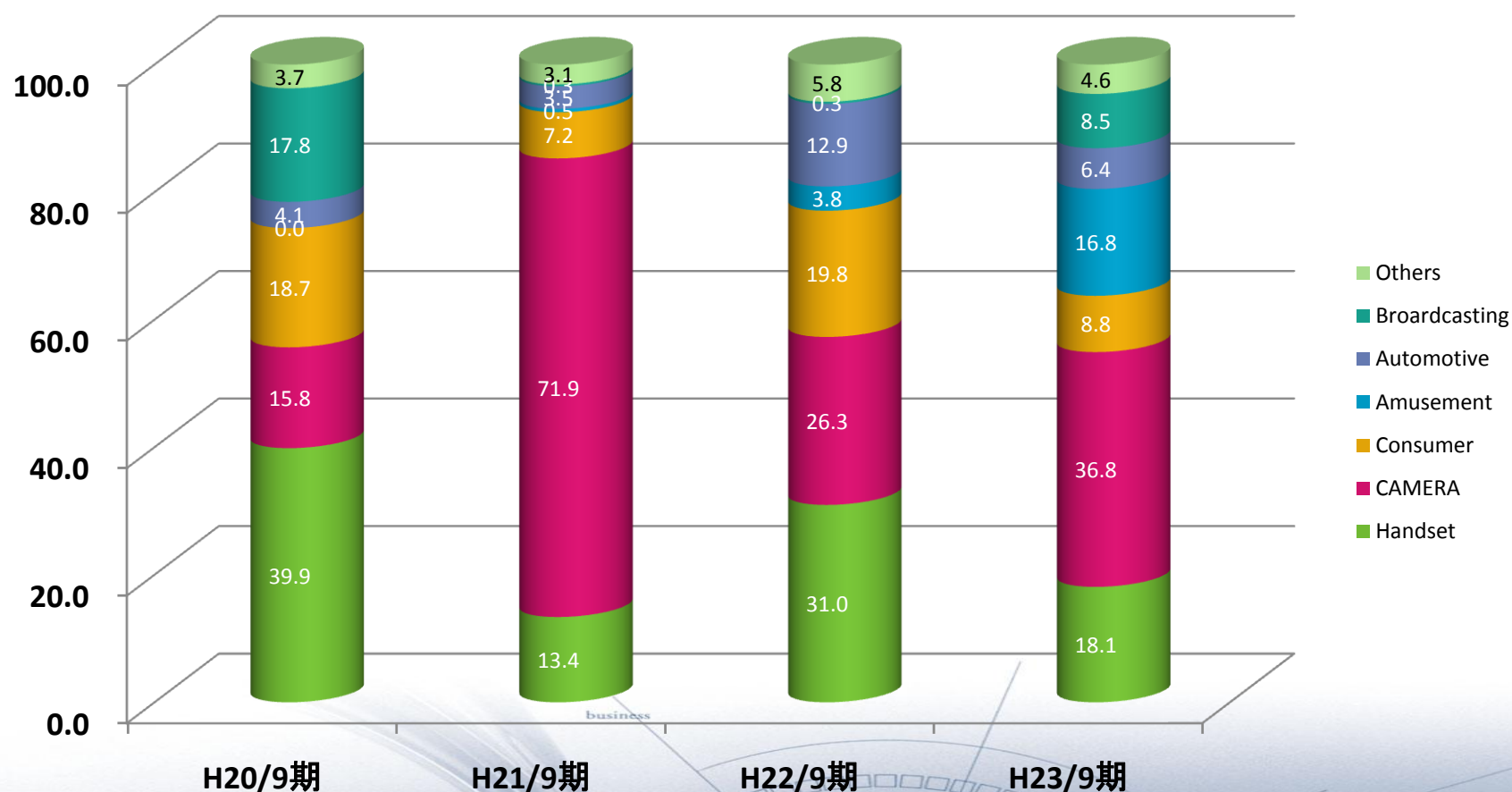
◆ハードウェアは前年同期間比8割強増・・・画像エンジンチップ関連、DMNA-Vなど



3-2 売上の内訳(対象市場別)

◆カメラ向けとアミューズメント向けで売上の50%以上を占めることとなった。

◆Broadcastingはエリアワンセグ関連が好調。今後特区向け需要を見込む。



4-1 通期業績見通し

(単位:百万円)

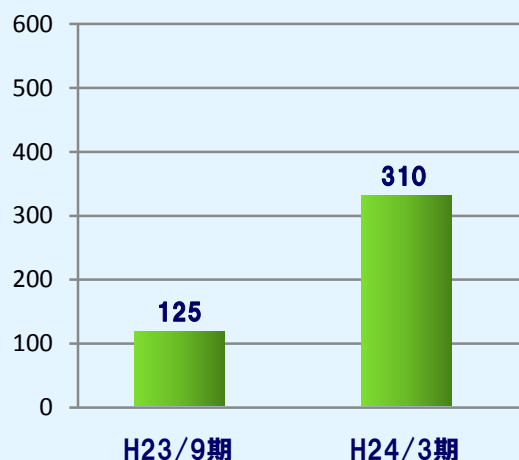
	通期予想	増減	増減率	前期実績
売上高	820	+165	+25.2%	655
経常利益	△32	+176	—	△208
当期純利益	△36	+226	—	△262

- ◆ ソフトウェアライセンス＝H.264、AAC-LC、エコキャンなど見込む
- ◆ ハードウェアライセンス＝H.264、JPEGなどで大型案件見込む
- ◆ 応用システム開発＝各種ソリューション関連の案件獲得見込む
- ◆ 単機能LSI＝H.264LSIおよび同モジュールの販売に注力

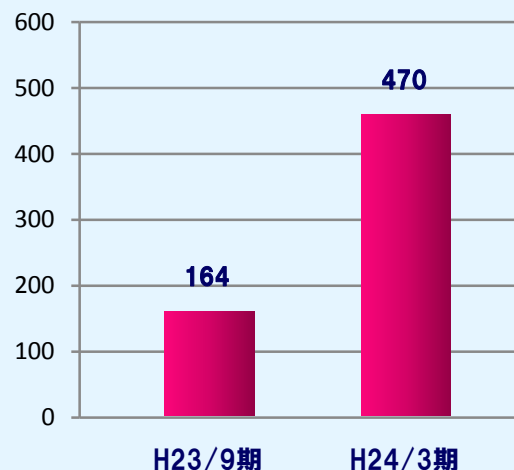
4-2 主な増減要因

＜売上高＞（単位：百万円、H24/3期は計画値）

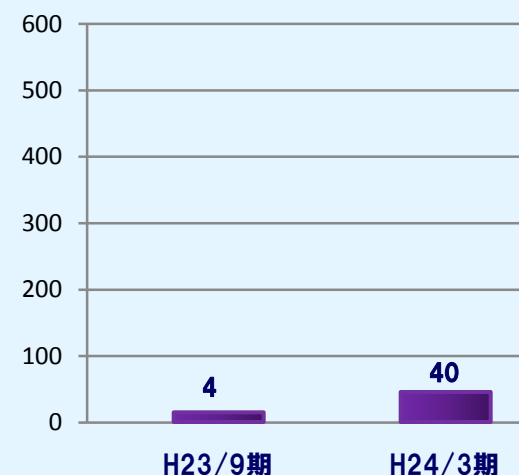
ソフトウェア事業



ハードウェア事業



単機能LSI事業



- ・ワンセグ、3セグ、フルセグ関連でH.264、AACなど底堅い需要を見込む
- ・ゲーム関連、車載関連、スマートフォン関連もターゲットに

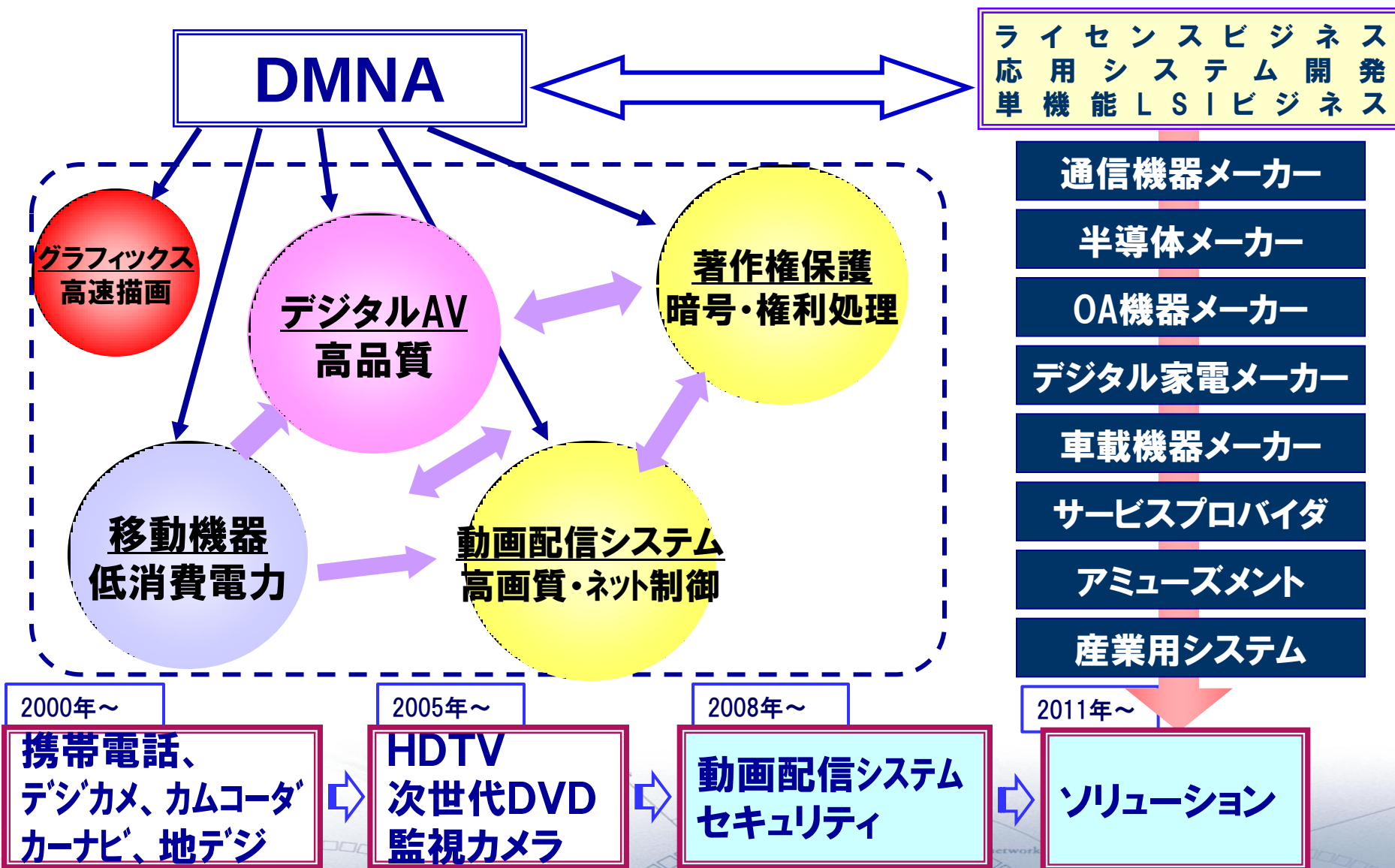
- ・デジカメ向けなどを中心にH.264HDを販売
- ・JPEG (4Px1/c1k) で置き換え需要を掘り起こす
- ・H.264、JPEGなどのFPGA対応ビジネスも進める

- ・評価ボード、デモボードに加え、使い勝手の良いモジュール仕立てとし、H.264LSIの顧客獲得を目指す

5 平成24年3月期における課題と進捗

- 1. IPビジネスに加えソリューションビジネスへ本格展開開始**
⇒ エリアワンセグ向けソリューションが軌道に乗りつつある
- 2. 営業進捗・予算管理の強化による損益黒字化の達成**
⇒ 月次進捗会議により案件確度の見極めと予算確保策を確認
- 3. 既存技術のブラッシュアップによる差別化/優位性の維持・強化**
⇒ 画質向上(H.264lite)、高速化(JPEG)、他
- 4. 新技術の開発によるマーケット・ニーズの先取り/開拓**
⇒ 超解像、HE-AACv2 5.1ch、他

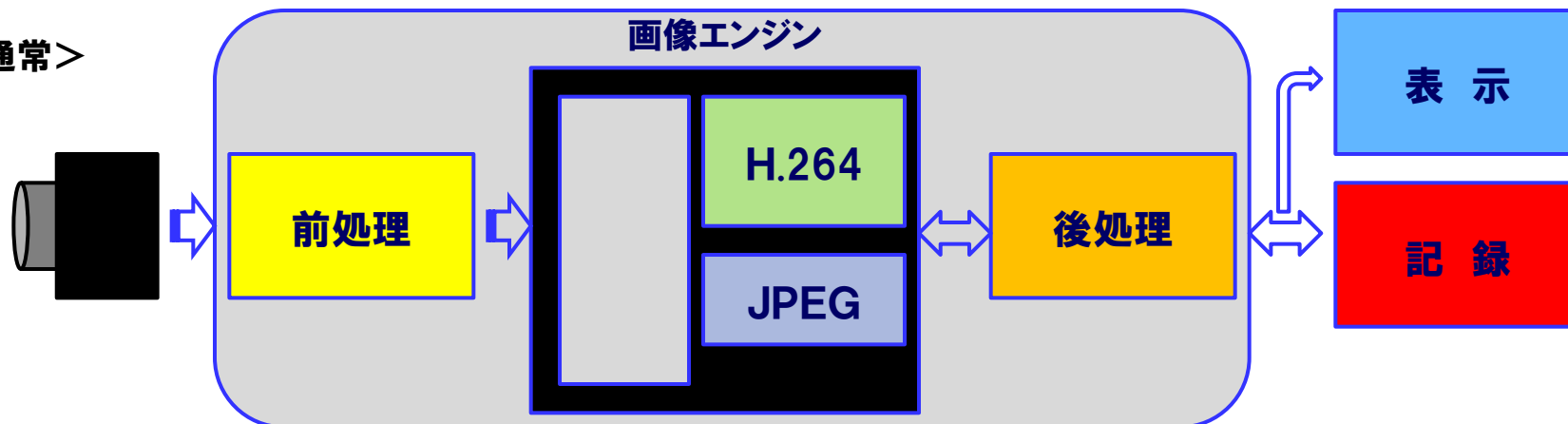
6-1 ビジネス展開の推移



6-2 DMNAソリューションの効果

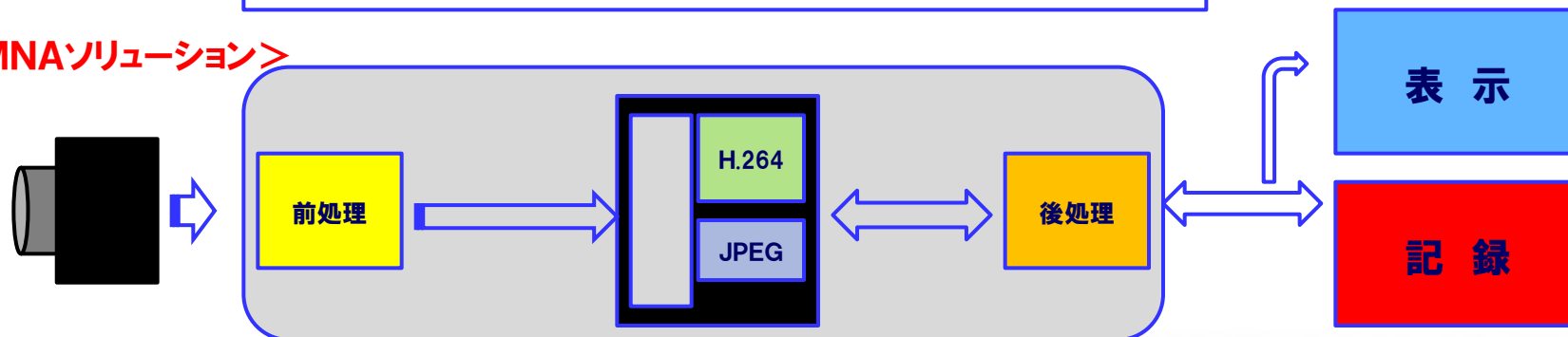
デジタルカメラ例

<通常>



規模が1/2に ⇒ コンパクト化

<DMNAソリューション>



しかも

より高速に処理し

より精彩に表示

アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 経営企画部

TEL:03-5798-3636 E-mail:ir@tmath.co.jp